

キミ子方式と大学生

松本 昭彦 (愛知教育大学美術教育講座)
(2004年10月27日受理)

KIMIKO Method and University Students

Akihiko MATSUMOTO (Department of Visual Art, Aichi University of Education)

要約 絵の描き方を具体的に指示することは、制作者から「個性」と「創造性」を奪い、不自由さと苦痛を与えるものであると言われてきた。しかし、大学生を対象にキミ子方式で授業を行ってきたところ、多くの学生がこの具体的な指示のあるやり方に満足していることが、昨年度末の「学生による授業評価調査」の結果から判明した。絵画教育では、個性や創造性を発揮させるために自由に描かせることが重要なのではなく、自由に描けるように育てていくための具体的かつ系統的な教育方法が必要であると考えられる。

Keywords : キミ子方式, 三原色, 個性, 自由, 満足感

はじめに

大学での授業に筆者がキミ子方式を採り入れたのは2003年の9月からのことである。「自由」を尊重する絵画指導法の下で、「個性」や「感性」「創意・工夫」などという抽象的で漠然とした評価の観点に悩まされてきた。また、「興味・関心」「意欲・態度」という評価基準にも、教師側の主観や感情移入が伴うのではないかと判断に苦しむ思いをしてきた。

小学校の現場に勤める教師たちからも「どのように絵を教え、どのように判断したらよいかわからない」という声をしばしば聞く状況にある。

本論では、数年後に教育現場に立つであろう本学の学生たちの間でキミ子方式がどのように受けとめられたのかについて報告するとともに、絵画教育にとって重要なことは何であるのかについて考察することを目的とする。

1. キミ子方式と「個性的で自由な表現」

1-1 キミ子方式

キミ子方式は、松本キミ子が東京都内の小中学校で図工・美術の産休補助教員として教育活動をするなかで出会った絵の描けない子どもたちから学びながら1975年に開発した「美術入門のための教育法」である¹⁾。1978年、板倉聖宣²⁾との出会いを契機にして、仮説実験授業研究会に所属する熱心な教師たちの間で実践がひろまり、1982年堀江晴美との共著『絵のかけない子は私の教師』（仮説社）、『三原色の絵の具箱』（ほるぷ出版）が出版されて以来、全国的に知られるようになった。

現在、キミ子方式は小中学校の現場にとどまらず、成人やシルバーエイジのための生涯教育、幼児教育、

さらには障害者教育の場や美術大学などにも普及している。1995年以降は、中国・トンガ・ニュージーランド・韓国・コロンビア・チャド・ルーマニアと国外での活動も行われるようになった。

キミ子方式の教え方には幾つかのルールがある。松本一郎³⁾によれば「三原色と白で自分の見えた色を作って、一点からとなりとなりと描いていって、画用紙が足りなければ足し、余れば切って最後に絵がまん中になるようにする」⁴⁾程度であり、決まりごとの数自体は「そんなにない」とされている。

一方で、「個性的で自由な表現」を目標に掲げ、「創造性」を重視する従来の絵画指導法の支持者たちからは、キミ子方式は制作者の「個性」と「自由」を奪い、不自由さと苦痛を与えるものであるとして批判の声もある。

1-2 自由に描かせることの危険と矛盾

しかし、絵を教えるときに、「個性的で自由な表現」を目標にすることや、「創造性」や「感性」を評価に組み込むことには矛盾や危険があるように思われる。まず、「自由に描きなさい」と指示した後では、批評する行為そのものが矛盾であると言える。また、指導者の個人的で趣味的な主観と「合う」「合わない」といった差別的要素を排除しきれない点も指摘できる。

さらに、評価による制作者の人格へ及ぼす影響も見過ごすことができない。板倉聖宣が「絵と私」と題する文章の中で、

「誰かからおかしな褒め方をされて誇大妄想の世界に入った」と思われる事例をいくつか知っている⁵⁾と、述べているケースがそれに当たる。誇大妄想に陥り、過度の「自尊心」を持った者の言動や行動は、社会性を欠くため、周囲からの反目を買いやすい。

筆者自身の教育体験からも分かってきたことだが、

批判的な評価は描いた本人の自尊心を傷つけ、劣等感を与えやすく、逆に、褒めた場合には板倉の指摘どおり、誇大妄想に陥らせやすい。また、いずれの場合でも、教師に対する怒りや不信感を与えることがある。こうした傾向をまとめたものが表1である。

表1 批判したときと褒めたときの作者の主な反応の傾向

作者の自己評価	批判したとき	褒めたとき
成功したと思っているとき	自尊心が傷つく、不信感、怒り	励み、誇大妄想に陥りやすい
失敗したと思っているとき	劣等感、絶望感、不信感、怒り	教師への不信感、白け、怒り
評価が分からないとき	自尊心が傷つく、劣等感、諦め	不信感、誇大妄想の可能性

「個性的で自由な表現」を批評するという行為は、価値の判断基準が主観的かつあいまいで差別的でもあるため、人間関係に及ぼす影響も強いことが分かる。作品の評価が制作者の存在そのものの評価につながる危険を孕むものと言える。

1-3 「個性的で自由な表現」の実態

「個性」は発揮するものではなく、すでにあるものというのが筆者の考えである。あるいは、「個性」を発揮しようと努力することを忘れたとき自然と「個性」は出ているもの、と言い換えてもよい。

養老孟司は、医学者の立場から「個性」について以下のように述べている。

このところとみに、「個性」とか「自己」とか「独創性」とかを重宝する物言いが増えてきた。文部科学省も、ことあるごとに「個性」的な教育とか、「子供の個性を尊重する」とか、「独創性豊かな子供を作る」とか言っています。(中略)「共通理解」を追求することが文明の自然な流れだとすれば、おかしな話です。明らかに矛盾していると言ってよい。(中略)「個性」は脳ではなく身体に宿っている、というのは当然のことです⁶⁾。

「他人とは違う」という意識は、現代のような競争社会においては、「孤立」や「孤独」という感覚より、寧ろ、差別的な自尊心をくすぐるニュアンスを持つようになってしまった。「個性的で自由な表現」という言い方をよく見聞きするが、その実態は「目立とうとして作為的かつ戦略的につくられた恣意的で身勝手な作品」に過ぎないと疑われる。

2. キミ子方式と大学生の感想文

2-1 キミ子方式と感想文の重要性

2003年9月、平成15年度前期の最終授業日に、初めて「色づくり」の授業を試みた。その3ヶ月前、『絵

を描くっていうことは』(松本キミ子、仮説社、1989)に触発されて以来、『絵のかけない子は私の教師』『三原色の絵の具箱』『モデルの発見』(松本キミ子、仮説社、1999)、『誰でも描けるキミ子方式 たのしみ方・教え方入門』(「たのしい授業」編集委員会、仮説社、1993)、『教室のさびしい貴族たち』(松本キミ子、仮説社、1984)、『ひろびろ三原色』(松本キミ子、ほるぷ出版、1986)などを読み、筆者なりに教材研究をしたうえで臨んだ授業であった。

その後、筆者自身も松本キミ子添削の通信教育でキミ子方式を初級入門コースから学ぶことにした。そのきっかけとなったのは『三原色のフィールドノート⑤キミ子方式で描こう!動物』(p.25)に掲載されている子どもが描いたニワトリの絵である。この絵の素朴な美しさと誠実さに心動かされたと言ってもよい。正直に告白すると「こういう絵が自分や自分の教え子にも描けるようになるのなら、これまで自分が積み上げてきた絵画と絵画教育に関する知識と技術を全部捨ててもかまわない」と思わせたほどの絵である。

通信教育の初回の課題も「色づくり」であった。自身の作品と感想文に添えて学生たちの作品も写真にして送ったところ、松本キミ子から、

キミ子方式で何より大事にしているのは「作者のよろこび」です。特に描いている過程(これはいつでもやめられる順序なので)のたのしさに重点をおいています。学生の感想文を読みたかったですね。次の「もやし」をぜひ学生にやってもらって下さい。そしてあなたの感想(今まで絵を描いてきた人の)と、これから教員になる大学生の感想と比べてみたいです。

との返信があった。授業後の感想文に関しては、『絵のかけない子は私の教師』(p.50)や『絵を描くっていうことは』(p.71)に、その重要性が説かれているのに、筆者は初回の授業でそれを怠った。それゆえ、学生たちがどんな気持ちで「色づくり」を受講したかがわからなかった。この反省から、後期の授業では感想文を書かせることにした。

2-2 大学生の感想文

平成15年度後期に筆者が本学で担当した授業は、図工・美術専攻2年向け「絵画実技Ⅱ」、同3年向け「絵画制作Ⅱ」、同4年向け「造形研究」、大学院向け「絵画演習Ⅱ」のほか、他教科専攻の学生向けに小学校教員免許取得のための「図画工作科研究AⅠ」が2コマ、計6コマである。これらのうち4年生は卒業制作の完成までに数ヶ月しかないので、授業にキミ子方式は採り入れないことにした。残る5コマは全てキミ子方式で授業を行った。

授業内容は①色づくり、②モヤシ、③イカ、④毛糸の帽子、⑤空、⑥絵はがき、⑦カメ、⑧ニンジン(また

は大根)の8題材⁷⁾である。これらの8題材は通信教育の初級入門コースと内容も配列の順序も同じである。図工・美術専攻の学生には「お団子一つの動く人」⁸⁾「バケツ」⁹⁾なども別途指導した。

以下に、「図画工作科研究A I」を受講した国語・算数・家庭・学校教育等を専攻する学生の感想文について紹介したい。紙幅の都合上、全ての感想文を掲載することは不可能なので、各題材についてのほんの一部分に過ぎないことをお断りしておく。

①色づくり

- ・絵は自由に描いていいよ、ということを書かないで、一定の決まりを教えてくれている感じが好きです。楽しんで授業うけました。
- ・先生の教え方のおかげでとてもおもしろく色づくりを学ぶことができました。
- ・早く子どもたちにこのことを教えてあげたい。
- ・全員が同じ工程を、同じ作業をしているのに、出来上がった作品は1つとして同じものがない、個性のあるものとなる。満足です。
- ・ただの色作りと思ったのに、ちゃんとステキな作品になってビックリ!
- ・自由にできてとってもよかったです!!新しいやり方に出会った感じです!
- ・プリンタの原理が少し分かったような気がする。色の配分を少し変えるだけで異なる色を作れることに少々感激を覚えた。
- ・今までの美術とはちがう新しい美術を習ってる感じがしました。
- ・自分の好きな色ができた時、うれしかった。できた作品を部屋に飾りたいと思った。
- ・お休みするつもりでしたが、やっぱり授業の方をとってよかった。

②モヤシ

- ・描いていくうちに、自分でもやしを育てているような、優しい気持ちになっていった。集中することと、丁寧に大切に描いていくことがそのような気持ちになったのだろう。絵を描く時の原点に戻れたように思う。
- ・もやし1本かくのにこんなに集中してかけて、胸がすんとした。
- ・いつも絵を書くときは好きな所から書いていたけれど、成長順に書いてみると、いつもよりじっくり物をみてた気がします。
- ・ゆっくり描くことで絵の楽しさが再認識できました!
- ・黒の画用紙に描くとけっこう味が出るのでよかった。
- ・もやしとお友達になりました。
- ・絵どころが全くないので心配だったけど、先生の言うとおりに描いたらなんとか描けてよかったで

す。

- ・ねっこを描くのが楽しかった。莖は描くのが難しかったけど、戻らず描くことでリアルに見える気がした。今までは、描くとき戻ってばかりで、人生も振り返ってばかりで、もっと前を向いて生きようと思った。
- ・微妙な色がなかなか出なくて苦労したが、出たときの喜びは言葉にできない。楽しかったです。

③イカ

- ・自分は今まで絵というのはセンスのみがものという世界だと思っていました。でも、もやしとイカという緻密なものと大きなものという両極的なものを書く中で、どんなものをかくにも共通して、方法論と言うか、正しい手法で描くことが大事だとわかりました。
- ・水彩ってすごくむずかしいけど、とてもきれいだと思う。同じようなイカなのに、ここまで色のとらえ方が人によってちがうおもしろさを知った。最後は楽しかった。
- ・違う色がにじんでいって、予想していない色ができていく経過がとても楽しかったです。イカを順番通りに描いていくと、だんだんとでき上がってイカらしくなっていく、不思議な感じがしました。描いていくことに充実を感じました。
- ・途中からイカがかわいく見えて仕方なかった。ちょっぴり臭かったけれど、大胆にダーッと感じて書いて、とても楽しい時間でした。
- ・先生の教え方が最高に分かりやすくて上手に描けて素敵すぎます。私でもちゃんと描けて嬉しいです。
- ・先生が細かく書く順番や、色の作り方、ものの配置を説明してくれて、少しはうまくできたと思う。自分が先生になったら、あんなにうまく教えられないなあと思った。
- ・どんどんもの見方が変わっていく気がする。

④毛糸の帽子

- ・最初毛糸の帽子を書くというのでこんな細かい編み目をどうやって書いていくのだろうと考えた。でも先生が「パターンを楽しむ」と言って「ああそうか」と納得した。
- ・頭の中でクリスマスの歌をうたいながら描きました。ちゃんと毛糸の帽子になってビックリだし、楽しかったし、まんぞくです!
- ・同じ文字を繰り返して書くという手順で絵を描くという方法があることを知った。自分が想像した以上の絵が描けたことに驚いている。
- ・毛糸の帽子をローマ字のHやVなどで編めてしまうなんて筆や絵の具に感謝です。
- ・こういう図工を1年のときからうけていたら、少しは好きになってたのかなあと思いました。図工

が嫌いな子（自分です）でも意欲的に参加できる授業です。

- ・自分が編み物をしている気分で楽しくできました。
- ・子供もこれなら楽しんで描けるんじゃないでしょうか！

⑤空（と雑草）

- ・空だけ描いた時はどうなるんだろうと不安だったけど、先生を信じて雲、木を描いていたら自信ある作品ができた。
- ・描き方を教わって描くと今までとは違った空を描けて良くなった。雲も描き方を知ってからは本物っぽく描けた気がして良かったと思う。
- ・今日も新しい発見のある授業でとても楽しかったです。雲をとけ込ますのが難しかったけれど、なかなか上手にできました。
- ・水でうすめながらぬったら、ちょっとずつ空っぽくなっておもしろかった。
- ・初めはこれでいいのか!?!と思うくらい単調な絵だったけど、雲を描いていくとだんだん空らしく見えてきてすごいと思った。雲の存在がとても重要だと思った。楽しかった。またやりたい!
- ・空はほんとに上から順にうすくなっていたのできれいでした。
- ・先生の方法ってすごくすごい!!リアルになるしい感じになるし、じっくり描くことがすごく楽しい。ありがとうございます。
- ・花があるとぐんと空がきれいになった。だから描いている時とても楽しかったし、絵に魅せられてほれほれとしてしまった。

⑥絵はがき（とハンコ作り）

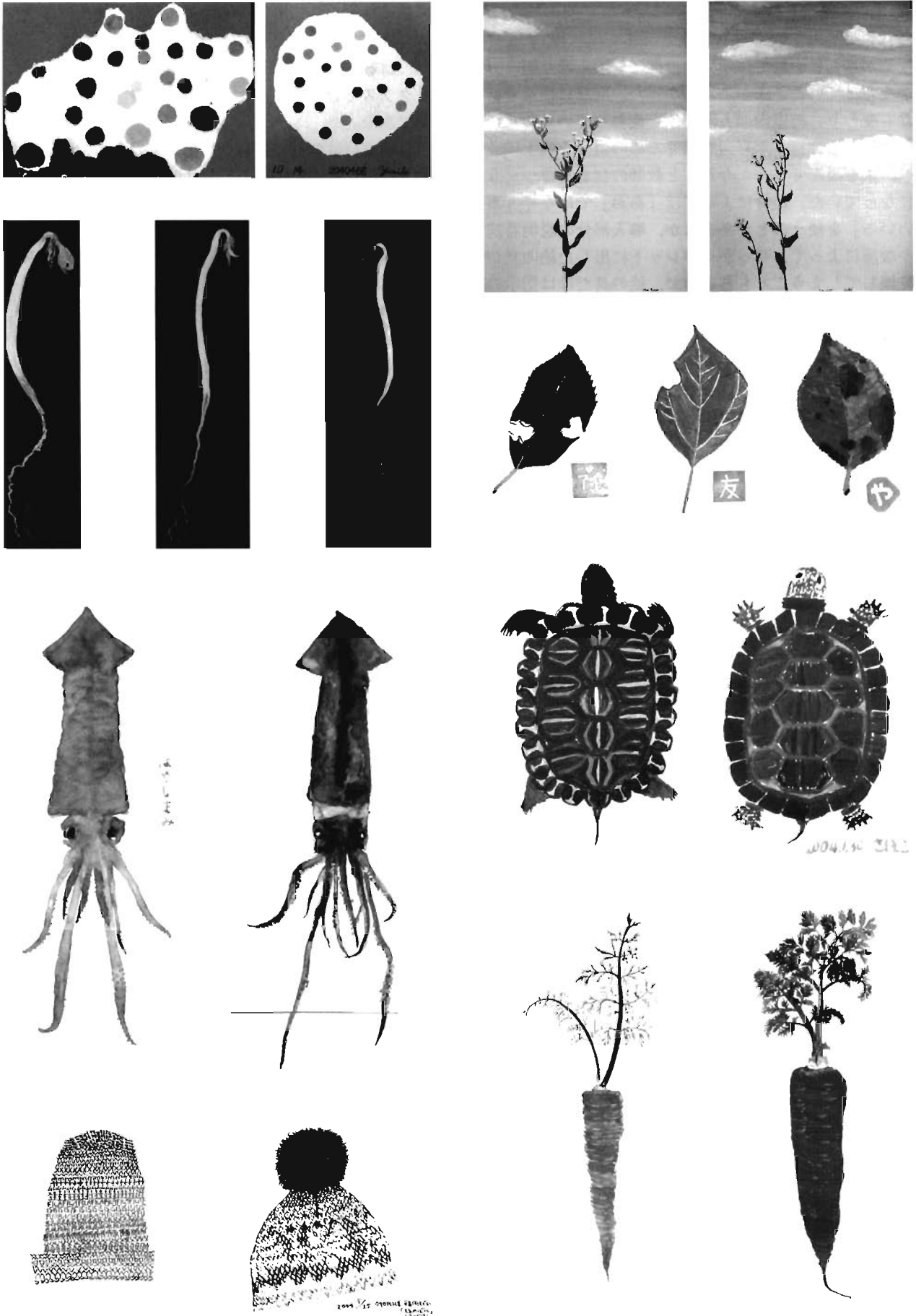
- ・なんかハガキになったらかわくなったのでうれしいです。
- ・今日はとっても達成感がありました。ハガキにもなつてうれしいです。友達にこれで手紙だそうかなあと思います。
- ・また今までで一番楽しかった。
- ・絵ハガキ作りをすごい楽しみにしていてやっと出来てよかった。完成したハガキは高校のときの友人におくろうと思います。
- ・いままで絵を描くことが苦手だったけど、得意とまでは言えないが好きになりました。
- ・思ったより簡単にできた。ぜひ家族にも教えてあげよう。
- ・ただのはっぱの絵でもハガキの大きさにしてハンコをおすだけでそれなりになったので驚いた。
- ・葉を書くのは楽しかったです。はんこはかわいくできました。手紙を自分に送りたいです。
- ・このハガキはお父さんに送りたいと思います。
- ・ハンコ作りがいちばん楽しめた。

⑦カメ

- ・カメって甲羅が13枚、全部で38枚もあるんだなあ。1匹のカメを友だちと3人で描いたけど、みんな色も形も大きさもちがう。同じカメを描いているのにフシギ。
- ・すごく自分の描いたカメに愛着を感じる。
- ・やっぱり実物を見て描くのは大切だなあと思いました。カメがこんな風になってるとは知らなかったです。
- ・めちゃくちゃ愛着。やっぱり目を入れると一気にかわいくなりました。色づくりもとてもたのしくて、つかめてきた気がします。
- ・なぜ、順番があるのかなと思いました。描きやすかったです。描いていきだんだんできてきておもしろかったです。
- ・高校生まではどうしても輪郭から描いてしまっていたので、枠の中であまり自由に描けなくてうまくいかないことが多かった。やはり、中から外へ広がっていくように描いていくということは気持ちも広がっていくようで、とても生き生きと描くことができる。
- ・やっぱり生きている物を書くのは表情がいろいろでいいなあと思った。カメのおかげで絵もいきいきしました。
- ・亀の甲羅を一枚一枚描いていると、まるで本当に亀に一枚一枚はっているみたいだった。

⑧ニンジン（または大根）

- ・葉っぱの部分が難しかった。普段、にんじんの葉を見ることがないので、想像とちがって少しびっくりした。いつもとは全然違う書き方ができておもしろかった。
- ・人参はいままでので図工の総力で描いた。
- ・にんじんを書くのは楽しかった。太筆で左から右へ書く動きが気分がよく、葉の部分を細かく書くのも楽しかった。
- ・細かいところまで見ると、こんな風になってたんだ!!って大発見!!しかも私の描いたにんじんはとーってもかわいくって、描いててとっても楽しかったし嬉しい気分になりました!
- ・描けた。暖かい大根が描けたと思う。あんまり白くないから、土の中から出てた部分が多いけど、土の中の暖かさがでてる様に見える。
- ・少しからそうな大根になりました。描いていてお百姓さんが丹精込めて作ったんだなあって思ったのははじめてなので、いい経験になりました。
- ・にんじんは、根の部分はいかを描く時の気持ちで、葉の部分はもやしを描く時の気持ちで描きました。どちらも違う表現ができて、とても楽しく進めることができました。



図版 学生による作品「色づくり」「モヤシ」「イカ」「毛糸の帽子」「空（と雑草）」「絵はがき」「カメ」「ニンジン」

2-3 8 題材を終えて

「色づくり」から「ニンジン（または大根）」まで授業が進むにつれて、学生の授業に対する取り組み方が変わっていくさまがよく分かった。同時に授業者自身も変わり、教室内の人間関係も変わっていった。

学生たちは自ら水彩画を描くための道具を机の上に並べ、水を汲んで「今か今か」と教師の到着を待つようになっていた。題材によっては「あお」ではなく「あいろ」を使うことがあるほか、導入部分の説明時間や暖房によって、せっかくパレットに出した絵の具が乾燥してしまうこともあるので、絵の具だけは指示の後に出すよう注意を与えた。

8 題材を終えた時点の学生たちの感想文からは、彼らがキミ子方式の授業をどのように受けとめたかが分かる。紙面の関係で一部分だけを紹介する。

- ・手話での講義のお手伝いということで、この講義に参加したのですが、いつからか自分の方が楽しんで絵を描いていた気がします。小・中と絵がダメだと言われ続け、大学の進路も変更した（建築が希望でした）自分が、絵で褒められるなんて思ってもみない経験でした。もっと前にそのような経験があれば、自分の生き方も変わっていたかもしれません。
- ・小・中学生の頃はとにかく絵の具が嫌い、絵の具を使うと台無し〜ってなっていたのが不思議なくらい絵の具を楽しめるようになれました。嬉しい!!
- ・先生みたいな先生になりたいと思いました。
- ・先生の授業はすごく勉強になったし、とても楽しかったです。教える側として考えることができ、勉強になりました。
- ・先生みたいに、子どもをひきつけて、ゆっくりわかりやすく、みんながついてこれるように、指導ができるように頑張りたいです。
- ・毎回新しいことを教えてもらえて、しかも自分で描くよりずっと上手に描けるからすごく楽しかったです。
- ・絵を描くのが少し好きになりました。
- ・もう3原色で色をつくりだすことが当然になっている。
- ・絵に命を込めるような集中力を得ることができました。
- ・なんだか絵が上手くなったような気がします。
- ・今はどうかき進めればいいのか身につき、とても成長した気がします!!

3. キミ子方式と「学生による授業評価調査」

3-1 「学生による授業評価調査」とその結果

調査は、教務課からの要請で平成15年度末の最終授

業日に行った。筆者は「図画工作科研究A I」2クラスで調査を実施した。最終の授業日以前に「ニンジン（または大根）」を描き終えた学生は欠席していたが、2クラスを合わせると延べ80人からの回答を得ることができた。

質問項目は全部で16あったが、そのうち2つ（質問12及び13）は空白になっており、学生への質問を自由に設定できるものであったが、敢えてその部分は実施しなかった。また、質問15は、質問14で「いいえ」または「どちらかというといいえ」と答えた場合のみ答えるものであり、該当する者がいなかったため質問そのものが無効となった。質問16は自由記述式であるが、先に紹介した学生の感想文と内容がかなり重複しているため、授業改善に役立つと判断されるもののみ紹介する。

学生の答え方は「はい」「どちらかというとはい」「どちらともいえない」「どちらかというといいえ」「いいえ」の5段階である。各質問項目の内容と5段階毎の回答者数は次の通りである。

1. 授業の内容は、シラバスに示された主題や目的に十分沿っていますか。(はい63, どちらかというとはい8, どちらともいえない7, 無回答2)
2. 教員は、学生が質問したり、意見を述べられるような配慮をしていますか。(はい72, どちらかというとはい7, どちらともいえない1)
3. 教員は、一人ひとりの学生に対して公平に接していますか。(はい68, どちらかというとはい8, どちらともいえない3, どちらかというといいえ1)
4. 教員の話し方は、明瞭で聞きとりやすいですか。(はい76, どちらかというとはい3, どちらかというといいえ1)
5. 板書やプリント等の補助資料は、授業の理解を助けるように工夫されていますか。(はい70, どちらかというとはい5, どちらともいえない4, いいえ1)
6. 授業の進度および時間配分は、適切だと思いますか。(はい70, どちらかというとはい6, どちらともいえない4)
7. 教員は、興味深く、理解しやすい授業を行う努力をしていると思いますか。(はい73, どちらかというとはい7)
8. 学生の理解度を確認しつつ授業が進められていますか。(はい68, どちらかというとはい10, どちらともいえない2)
9. この授業によって知識の獲得、興味・関心の増大など、自分にとって得るものがありますか。(はい69, どちらかというとはい10, どちらともいえない1)
10. この授業に触発されて、自分でも考えたり調べた

りしたことがありますか。(はい16, どちらかというとはい14, どちらともいえない20, どちらかというといいえ8, いいえ22)

11. 授業は、全体として満足できるものですか。(はい74, どちらかというとはい5, どちらかというといいえ1)
12. 13. 質問を設けなかった
14. あなたは、この授業で、意欲的に学んでいますか。(はい65, どちらかというとはい8, 無回答7)
15. 項目14で④(どちらかというといいえ), ⑤(いいえ)と回答した方は、その理由を次の①~⑥のうちから選び【 】に記入して…(該当者なし)
16. 自由記述欄(授業が2時間連続¹⁰⁾だったらやりやすかった・シラバスの内容を意識して授業を選んでいます、必修だったから・もっと広い部屋で描きたかった・カメラは用意してもらえると一層ありがたい・工作系がもっとしたかった)

3-2 調査結果からの考察～キミ子方式と大学生

質問項目1から9の結果、質問項目の3～5で1名の学生だけが「どちらかというといいえ」か「いいえ」と答えている。この一人の存在こそがさらなる授業改善を促してくれる源であると謙虚に結果を受けとめたい。「図画工作科研究」のシラバスは十名以上の授業担当者に共通しそうな概略しか書かれていない点、学生は指定された授業を受講するだけなので実際はシラバスを意識していない(または読んでいない)のが現実である点を考慮すると、質問項目1はあまり意味がないように思われる。そこで質問項目1を除くと、68人(85%)～76人(95%)が「はい」であり、「どちらかというとはい」も含めると、75人(93.75%)～80人(100%)が肯定的回答であったことから、キミ子方式を採り入れた授業はおおむね成功であったと思われる。

質問項目10の結果、「どちらともいえない」学生を含めると6割強の学生が授業外でも自主的に絵について考えたり調べたりしたことになる。「家でも描いてみます」という感想文が時々あるので、そういう気持ちを大事にした取り組みについても検討していく必要があろう。

質問項目11の結果、「はい」が74人(92.5%)であり、「どちらかというとはい」と回答した5人と合わせると、98.75%の学生がキミ子方式に満足してくれたことになる。この理由を感想文から探してみると、

- ①丸っきりの自由にはならなかったこと
- ②余分なことは考えず見ることと描くことだけに集中できたこと
- ③思っていた以上にうまく絵が描けたこと

などが考えられる。なかでも「丸っきりの自由にならなかったこと」に関係すると思われる文章が、先にも

触れた板倉の「絵と私」の中にあるので紹介したい。少し長いが引用すると、

いわゆる進歩派の教育論では、得てして「子どもに創造性を発揮させるためには子どもたちを自由にしなければならぬ」という。子どもを束縛することを極端にきらうのだ。しかし、子どもは自由に放任しておいたら成長しないからこそ、意図的に教育するのである。束縛するのである。

だから理想的な教育を実現しようと思ったら「子どもを自由に活動させればよい」といつていたのでは全然だめなので、子どもたちにはまずどんな問題を与えたらよいか、どこからどのように描きはじめさせたらよいか、といったことを指示するようにしなければならない。かといって、いわゆる保守派の教育論のように何から何まで束縛・管理してはならない。もっとも原則的なことを指示したら、あとは大胆に子どもたちの自由にまかせたほうがいいのである¹¹⁾。

と述べられている。

質問項目14の結果からは、9割以上の学生たちが授業への意欲的な取り組みをしたと認められる。

これまでの結果から総合的に判断すると、キミ子方式は大学生にとって有効かつ有益な絵画指導であると言える。

さらに、質問項目16の結果について、実現可能な範囲で吟味して考えた場合、次のような改善点が見つかった。

- ①なるべく広い教室が「図画工作科研究」に割り当てられるよう教務と協議する
- ②モデルはなるべく授業者が用意する
- ③時間的なゆとりがあれば、授業の題材には立体的な塑像¹²⁾なども採り入れる

4. まとめ～絵画教育にとって重要なこと

キミ子方式の代表的な束縛(ルール)とえば、「三原色と白色で自分に見えた色を作らせる」ことである。このことに不満や不自由を感じた学生はいなかった。寧ろ色作りの難しさを楽しんだり、同じように描いても全員が違って見える原因のひとつとして受けとめたりしている。

「描き始めの一点を決めて、そこから隣となりへと描かせる」ルールも、迷いのない制作・安心感のある制作を可能にする道標となっている。あちこちに手を入れる描き方や後戻りしながら描くやり方は気晴らしにはなっても、それは未来や過去に逃げるのと同じである。キミ子方式では、先送りや後戻りを否定し、「今・ここ」だけに集中させる。それゆえ逃げ場のない真剣勝負をしなくてはならない場面に遭遇させることもある。そのことが完成¹³⁾時の達成感とか充実感を

生む。集中を要求するような真剣な取り組みこそが満足感につながるのであろう。

描き方ばかりでなく、キミ子方式では題材の配列にも意味がある。ゆっくり描くことを学習した後に、すばやく描くことを要求されたり、コツコツと誠実に描くことを学ばせたりする。植物・動物・人工物によって異なる描き始めの一点や描いていく自然な流れ（方向性）が身につくようになっていくほか、小筆・大筆・中筆の使い方やその役割分担についても学習できるように配列されている。「それぞれ前回のテーマを否定するような配列で繰り返すのがキミ子方式の基本」¹⁴⁾であると、松本キミ子は言う。

また、H.リード¹⁵⁾やV.ローウェンフェルド¹⁶⁾が、描画傾向と気質の関係を示したように、松本キミ子も人間を、細かく観察するのが得意な「モヤシ型」、なんとなく感じを出すのが得意で生命感に満ちた「イカ型」、抽象化したものを見るのが得意な「毛糸の帽子型」の3つのタイプに分類している。題材の配列・ローテーションには、どのタイプの人もかわるがわる主役になれるよう配慮がなされており¹⁷⁾、きわめて系統的な指導法であると言うことができる。

受講者の感想や調査結果を踏まえると、絵画教育では、創造性や個性を發揮させるために自由に絵を描かせることが重要なのではなく、キミ子方式のように自由に絵が描けるように育てていくための系統的で具体的な教育方法が必要であると考えられる。

おわりに

「勝ち組・負け組」というイヤな言葉をよく耳にするようになった。それほど今日の社会はさまざまな面で厳しい競争がある。美術の世界でも、演出された「個性」や「感性」、創造性が競われ、表現の基本である「伝える」ことがおろそかにされて久しい。

本学に在籍する98%以上の大学生から満足を得られたキミ子方式なら「図工嫌い（負け組）」を救う絵画指導法としても、「競争の絵に疲れた勝ち組」を癒し、再出発をさせるうえでも有効であろう。

「絵に描き方はない」「絵に教え方はない」のならば、絵画教育そのものの存在理由がなくなるのではないか。

注

- 1) 松本キミ子「キミ子方式」『現代教育学辞典』（青木一・大槻健 他編）労働旬報社、1988、p.143
- 2) 仮説実験授業研究会代表。国立教育研究所勤務（1959-1995）。著作は『仮説実験授業入門』（明治図書）『未来の科学教育』（国土舎）など多数。
- 3) キミ子方式の教育活動拠点として1989年に設立さ

れたキミコ・プラン・ドウ代表。1965年生。松本キミ子の長男。東京医科歯科大学・日本赤十字看護大学非常勤講師。『はじめてでも楽しみながら絵が描ける（キミ子方式によるアートセラピー）』（生活ジャーナル、2002）の著書がある。

- 4) 松本一郎「自分と同じという想いを忘れずに」(第1回キミ子方式・教える人と助手のための勉強会 in 川越での講演、1996)『第17回キミ子方式全国合宿研究大会』（東京美術の授業研究会編）、2000、pp.118-119
- 5) 松本キミ子、続ひろびろ三原色、ほるぷ出版、1986、p.32
- 6) 養老孟司、バカの壁、新潮新書、2003、pp.43-52
- 7) 『モデルの発見』（p.186）にも①～⑧の題材が示され、配列の順序は異なるが「①から⑧までを終えれば、どんなものも描けるようになる」とされる。
- 8) 三原色の絵の具箱（pp.16-17）に詳しく描き方がある。通信教育では中級コースの課題である。
- 9) 設計図をもとに作られる工業製品などがモデルなら、キミ子方式でも輪郭線を用いることがある。
- 10) ここで回答者のいう2時間とは、通常の90分授業が連続して2つで180分の意味だと思われる。
- 11) 前掲書5）、p.34
- 12) キミ子方式における塑像の題材について知ることのできる出版物としては、松本キミ子『三原色のフィールドノート⑥キミ子方式でつくろう！彫刻』（山海堂）や松本キミ子『ひろびろ三原色彫刻編』（ほるぷ出版）のほか、『誰でも描けるキミ子方式 たのしみ方・教え方入門』がある。紙粘土を使用しての「サツマイモ」「カボチャ」「ニンニク」「シイタケ」「シイトウ」「ソラマメ」「ウサギ」「ニワトリ」「人間の顔」などの作り方が分かる。
- 13) キミ子方式における「完成」は、基本的に作者の都合で決めてよく、時間がないとか疲れていやになったとかで、どこでやめても紙の切り取り方と題名の付け方で立派な絵になる。
- 14) 前掲書、モデルの発見、p.186
- 15) 邦訳『芸術による教育』植村鷹千代他訳、美術出版社、1953などの著者。英国人。ユングの精神分析理論の影響を受け、外向き・内向きの二つの方向性と、思索・感情・直覚・感覚の四つの精神機能を掛け合わせ、児童画の分類を行った。
- 16) 邦訳『美術による人間形成』竹内清他訳、黎明書房、1963の著者。1903年オーストリア生。1946年アメリカ、ペンシルバニア州立大学教授となった。児童画を視覚型・触覚（非視覚）型に分類。発達段階に応じた指導法で知られる。
- 17) 前掲書、モデルの発見、p.186